

ひとよし農業・最適化推進運動

農委会名：人吉市農業委員会

1 地域の概要

人吉市は、熊本県の南部、人吉盆地の最南端に位置し、東西21.6km南北22.1km、総面積210.48km²で、日本三急流のひとつ「球磨川」が東から西へ本市の中央部を貫流し、渓谷を蛇行しながら、延長100kmの流域を経て八代湾に注いでいる。

北緯32度12分36秒、東経130度45分45秒の位置にあり、熊本市・鹿児島市及び宮崎市へいずれも約70kmの等距離の内陸部に位置している。

中心部標高海拔105.7m、耕地は標高100～160mの地帯と標高600～700mの高地にまで散在しており、水田地帯は沖積土、畑は洪積土である。気候は、比較的恵まれた気象条件だが、盆地のため多霧多霜で著しい気温の差がある。

農業では、水稻・葉タバコ・桃・栗をはじめ、地域の特性を活かした畜産・野菜・果樹など多様な農業経営が展開されている。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 10人（うち、認定等6人、女性2人）
- (2) 推進委員数 15人（うち、認定1人、女性1人）
- (3) 事務局体制 5人（うち、専任4人、兼任1人）

3 掲げた目標

- (1) 担い手への農地の集積・集約化（新規 10ha
- (2) 遊休農地の解消面積 4ha

4 目標達成に向けた取組み(運動)の内容

(1) 担い手への農地の集積・集約化

市の農業振興課の水田台帳と農地台帳を照合して口頭契約を抽出し、戸別訪問にて利用権設定のお願いをした。

(2) 耕作放棄地の解消

耕作放棄地について、農地の管理、担い手以外との利用権設定などのお願いを戸別訪問により行った。

ひとよし「食と農の絆づくり」プロジェクト会議（部会）が主になり、市内の耕作放棄地を再生し、地元の小学生を対象とした農業体験及び食育活動を展開しながら農地の借り手を探した。

(別紙様式①)



【集落の話合い】



【小学生の農業体験】

5 取り組みの成果

水田台帳との照合から抽出した口頭契約者や農地の利用意向調査から行った戸別訪問により口頭契約の解消を含めて担い手へ約79haの新規集積ができた。

耕作放棄地の解消においては、戸別訪問等で口頭契約が少しずつだが解消されてきていることや、新規の掘起しで純粋なA判定からの耕作の再開が約3.9haあった。

本年も、ひとよし「食と農の絆づくり」プロジェクト会議が主となり実施している耕作放棄地を再生活用した農業体験活動は、小学校(2校)の児童約500人で、学年ごとにさつまいもや大根など、播種から管理、収穫までを行った。

また、令和4年11月に開催された人吉市地域支え合いセンター主催の交流イベントに参加し、農業委員会で播種し栽培したダイコンやカブそれ以外にも委員が自宅で育てたショウガ・サトイモ・タマネギ・もち米等、全16種類の販売も行い、令和2年豪雨災害の被災者支援とあわせて、食育活動としても食や農業の大切さへの理解を深めることができた。



【地域支え合いセンター主催の交流イベント】



【集落の話合い】

6 課題と今後の方針等

今年度は、人・農地プランの話し合いを新たに2地区で行い、18地区中16地区が終わったことになる。残り2地区については、遊水地計画があるため話し合いができず、令和5年度に開催予定である。コロナ感染予防対策のため多くの農業者の参集が難しいこともあり、話し合いができない状況であるが、今後、人・農地プランの実質化を進めることが担い手への集積・集約化及び耕作放棄地の解消に繋がると考えることから、市、農業公社、JA等の関係機関と連携し話し合いを進めていく。